

第38回児童生徒 読書感想文コンクール

小学校の部 5年生

参加数 42点

▶最優秀賞/鈴木 あかり さん
(弟子屈小)



選んだ本
つるにのって

▶優秀賞/
吉田 花月 さん(弟子屈小)
延原 由祐 君(弟子屈小)

小学校の部 6年生

参加数 55点

▶最優秀賞/西田 愛梨 さん
(弟子屈小)



選んだ本
おてんば盲導犬
モア

▶優秀賞/
後藤 優太 君(弟子屈小)
芝田 遥夏 さん(弟子屈小)
深井 杏香 さん(奥春別小)

高等学校の部

参加数 111点

▶最優秀賞/金澤 春奈 さん
(弟子屈高2年)



選んだ本
家族を看取る
〜心がそばに
あればいい

▶優秀賞/
高橋 希実 さん(弟高1年)
鈴木 亜美 さん(弟高2年)

今年度で38回目を数える児童生徒読書感想文コンクールに、今回も優秀な作品が数多く寄せられました。

参加総数656点(小学校1年生～高校生)のうち、23点が入賞作品に選ばれました。各賞を受賞した児童・生徒の皆さんを紹介します。

また今月から、各部門の最優秀作品を順次紹介していきます。

※コンクールの審査対象は小学校3年生以上。

■審査

次の各学校の先生方に審査をお願いしました。

(敬称略・()内は学校名)

●小学校の部

山本 学実(美留和小)/遠藤 茜(弟子屈小)/大野 澄江(川湯小)/湯浅 憲二(奥春別小)/中川 規子(昭栄小)/藤原 佳澄(和琴小)

●中学校・高等学校の部

小杉山 真理(川湯中)/本間 元章(弟子屈中)/加藤 真奈(弟子屈高)



小学校の部 3年生

参加数 68点

▶最優秀賞/石川 なでし子 さん
(川湯小)



選んだ本
長くつしたの
ピッピ

▶優秀賞/
齋藤 力 君(川湯小)
松田 亜美 さん(弟子屈小)
本間 由奈 さん(和琴小)

小学校の部 4年生

参加数 66点

▶最優秀賞/三田村 優音 君
(昭栄小)



選んだ本
大どろぼうホッ
ツェンプロット ほか

▶優秀賞/
阿部 宏紀 君(美留和小)
守屋 陽平 君(奥春別小)

中学校の部 1年生

参加数 64点

▶最優秀賞/山崎 美玖 さん
(弟子屈中)



選んだ本
光の中のアンネ・フ
ランク〜平和への
祈りを込めて〜

▶優秀賞/
野村 夢叶 君(弟子屈中)

中学校の部 2年生

参加数 69点

▶最優秀賞/西郷 綾夏 さん
(弟子屈中)



選んだ本
くちびるに歌を

▶優秀賞/
濱岡 日菜 さん(川湯中)

中学校の部 3年生

参加数 68点

▶最優秀賞/桐木 頼子 さん
(弟子屈中)



選んだ本
武士道シックス
ティーン

▶優秀賞/
栗田 恵梨 さん(川湯中)

■小学校3年生の部 最優秀賞 長くつしたのピッピ

川湯小学校 石川 なでし子 さん

わたしが、この本を読んで学んだことは、一日一日を大切に生きてゆかなければならぬということなのです。

この本の主人公、ピッピは、とても元気で強い女の子です。そのピッピの友だちのやさしい兄弟、兄のトミー、妹のアンニカ。三人は、いつも楽しく遊んでいます。

わたしが、この物語を読んで心にのこった場面は、二つあります。一つ目は、ピッピがたんじょう日パーティーをひらいて、トミーとアンニカをしょうたいして、みんなで遊ぶところ。二つ目は、ピッピの家に、ごろぼうがお金をぬすみに来るけれど、なかよしになっていっしょにおどろぼうです。三つ目は、ある家が火事になった時、ピッピがけおくれた二人の子どもたちをロープでたすけるところです。

一つ目の場面が好きな理由は、ピッピとトミーとアンニカで楽しく遊ぶからです。ピッピたちの遊ぶのは、ゆかからますという遊びで、わたしがしらない遊びですが、とってもおもしろそうな遊びです。でも、わたしなら、ただゆかからますで遊ぶだけでなく、おどろぼうしながら遊べたら、もっと楽しいと思えます。もし、わたしにピッピみたいな友だちがいいたら、かくれんぼや、トランプで遊びたいです。トミーとアンニカが帰る時、ピッピが、「あたし、大きくなったら、かいぞうへんになるよ。おーあんなたかもならなああ。」と言いました。

わたしだったら、せつたいピッピとかいぞうへんになりたいです。二つ目の場面が好きな理由は、どろぼうのおじさんたちが、とってもおもしろいからで

す。あと、おじさんたちとピッピがながくあって、いっしょにおどろぼうと、おじさんたちが帰る時に、金を一まらすつものところが好きです。もし、わたしの家にとろぼうが来たら、わたしは、がんばっておいだそうとします。物をぬすまれたら、こまるからです。だから、どろぼうにお金のありかを聞かされた時に、ピッピがベッドに入ったまま、かんたんに場所を教えてくださいました。とてもびっくりしました。そして、どろぼうがお金をとったとき、ピッピがすべへんにとりかえしてしまったので、やっぱりピッピは強いなと思いました。

最後、どろぼうのおじさんたちは、とてもやさしくなります。わたしは、やさしくなったおじさんたちなら、友達になりたいです。

三つ目の場面が好きな理由は、火事でけおくれた子どもたちを、たれもたすけられないのに、ピッピが楽しみながらたすけてしまっからです。わたしなら、子どもたちをどうやってたすければいいかわからなくて、思いついた時にはもう手おくれです。それなのにピッピは、べつすればいいの、自分ですべへん、考えてほしいと思います。

ピッピは毎日を楽しんで、強く、だいたんに生きています。ピッピのお話では、いやなこととたいへんなこともおこります。でも、それらの出来事をすべて、ピッピが楽しくかえしてきます。だから、ピッピは、こんなに生き生きと生きていけるのです。

これからは、わたしもピッピのようになりたい。これからも楽しくいかに生きていきたいと思います。

「書名」長くつしたのピッピ
「寸評」心に残った場面や、その場面が好きな理由がわかりやすく書いてあり、3年生とは思えない文章です。この本から一日一日を大切に生きてゆかなければならぬ「ピッピのよう、いやなことを楽しむ」ことに変えていきたい」ということを学んだなでし子さん。こ

れからも良い本に出会って、自分をみがいていってください。

■小学校4年生の部 最優秀賞 世界一ゆかいな大どろぼうを つかまえる

昭栄小学校 三田村 優音 君

ほかこの本をえらんだ理由は、表紙に描かれてある大どろぼうホッツェンプロットがいかに面白いほされなそうだったから、この先どうなるのかすごく気になったからです。

第一巻では、少年カスパールとゼッペルの協力によりホッツェンプロットは、つかまっています。この本は三巻あるのに一巻目でつかまらうと思いましたが、なんと二巻目にホッツェンプロットがまた出てきているのです。なぜだろとうときもんに思ったので、く読んで見ると、だつてくくくとした書いてありました。ほかは、びつくりしました。今度もつとけいびのがんじょうな所にホッツェンプロットは行くことになりました。

三巻目では、もうたつてくくしないだろうと予想して読んでいましたがなんとまた出てきたのです。

「行いがいいからしゃべつされた」とホッツェンプロットは言っていました。ほかは、せつたいうそだと思いましたが、ホッツェンプロットはどろぼうの時使っていた道具をほとんど捨てていったのです。ほかは、びつくりしました。ホッツェンプロットは本当にどろぼうをやめようとしてるのだなと思いました。

その後、ホッツェンプロットはどろぼうを

やめ、ふつづの人もどつて料理屋を開いたと書いてありました。

ホッツェンプロットがしゃべつされた後、ホッツェンプロットは、どろぼうをやめようと思った。そして、めいわくをかけたおばあさんの所にあまりに行つた。でも、まわりの人たちはホッツェンプロットの言葉を信じなかった。

でも、ホッツェンプロットは、「おれのいうことを信じてもらえないかもしれないが、おれは、かたぎの人間になろうとたく決心したんです。どろぼうの名譽にかけて」と言いました。それを聞いてまわりの人達はだんだんホッツェンプロットのことをわかっていきました。ホッツェンプロットは、自分の気持ちを必死につたえたところがいいなと思いました。

ほかは、この本を読んでわかったことが二つあります。一つ目は、どろぼうは物をぬすむからやっぱり悪いのかな、とばかり思っていました。二つ目は、この本がその言葉が変わりました。それは、どろぼうは、どろぼうでも、やめようと思つたらいつでもどろぼうをやることです。二つ目は、人は、一人でむりなことも、みんな協力して挑戦すれば必ずできるということです。ほかは、この本を読んで二つのことを学びました。

「書名」大どろぼうホッツェンプロット
「大どろぼうホッツェンプロット」
「大どろぼうホッツェンプロット」
「大どろぼうホッツェンプロット」
「大どろぼうホッツェンプロット」

「寸評」大どろぼうホッツェンプロットのシリーズ、三巻を通しての感想が書かれています。この本を好きな思いが文面からよく伝わり、合わせて500ページほどの長編なのですが、(自分も読んでみようかな)という気持ちになります。優音君にはまた、良い本を紹介してもらいたいです。本から学んだことを分かりやすく書いていたところも良かったです。